

キャベツ根こぶ病は低温期に定植する作型では発生が少ない

定植時期ごとのキャベツ根こぶ病の発生状況と気温との関係を調査し、発生が大きく減少する気温の条件を明らかにした

研究開発の背景・目的

- ・本県におけるキャベツ栽培は、8月～2月まで幅広い定植時期の作型が存在する。
- ・現地ほ場において、定植時期ごとの根こぶ病の発生状況を調査し、ほ場での発病度と温度との関係を明らかにする。

研究成果の内容

定植後14日間の平均気温が12℃以下の作型では、キャベツ根こぶ病の発生が大きく減少する

定植6週間後の発病度と定植後14日間の平均温度(H27)

定植月日	供試品種	発病度	現地ほ場		アメダス 気温(℃)
			地温(℃)	気温(℃)	
9月24日	金春	64.4	23.9	22.8	22.8
10月7日	金春	56.6	20.6	19.6	19.3
10月14日	金春	73.1	21.1	20.8	20.1
10月26日	金春	72.8	18.6	18.2	18.2
11月6日	金春	71.3	19.5	19.8	20.0
11月25日	かんろく	8.4	14.1	12.4	12.8
12月16日	かんろく	0	12.0	10.8	11.1
1月12日	かんろく	0	8.1	6.1	6.8

気温が低下した11月下旬定植の作型では、根こぶ病の発病度は著しく低くなり、12月中旬、1月中旬の定植では発病が認められなかった



高
気温
↓
低
根こぶ
減少



導入
メリット

既存の薬剤防除方法

- ①殺菌剤の土壌全面処理
- ②定植前に殺菌剤をセル苗灌注処理

11月下旬以降の作型では薬剤は不要

発病リスクに応じた防除体系の構築が可能となり、減農薬によるコスト低減につながる

期待される効果

定植時期を考慮した被害回避および減農薬

普及対象・範囲
根こぶ病の発生する県内のキャベツ
栽培農家

鹿児島県農業開発総合センター生産環境部病理昆虫研究室